

創立百周年記念事業を 成功させよう



同窓会報

第 31 号

発行 宮城県仙台第二高等学校
同 窓 会 事 務 局
仙台市青葉区川内蔵橋通一
番二二一五五五(直通)
印刷 創文印刷出版株式会社
仙台市青葉区大手町六番二号



百周年記念事業について

昨年11月に設立された創立百周年記念事業実行委員会の専門委員会を中心に各事業の計画が進められてきました。主な進捗状況を報告します。

○百周年記念館 針生承一(高13回) 建築研究所の協力をえて、南校地一帯(体育館・プール・硬軟庭コート・記念館)の整備と様々な要望をふまえて理想的ないくつかの案を検討してきました。北陵会館の機能をもちユニバーサルな空間を備えた八百平方メートル建が最終的な計画概要としてまとまりつつあります。先の北陵祭ではマスタープランの展示・アンケートを実施し、また生徒ヒアリングも行いました。今後は基本設計、続いて実施設計と進み、二十一世紀にむけた夢のある計画が現実のものとなっていきます。

○百年史の編集 編集方針の大枠づくりも最終段階で、執筆依頼にかかるべく準備中です。編集に当たって重要な協

力者となる印刷業者も次回の総務委員会にて提案選定される予定です。貴重な資料・情報の提供等同窓の皆様のご協力を重ねてお願いいたします。

○式典・記念行事 平成12年10月24日に百周年記念式典を予定しております。記念講演・祝賀会を含め、どの程度の規模・内容となるか検討し、会場の選定をする段階です。関連行事については予算とのかねあいをみながら企画することになります。

○事業推進のとりまとめ 専門委員会を総括している総務委員会が行います。過日の蔵王遭難供養塔改修にあたってはご協力ありがとうございました。ご協賛いただいた同窓の方々に改めて御礼申し上げます。百周年に向け尚一層のご支援をお願いします。

創立百周年記念事業

実行委員会事務局

教頭 山田 守



ご挨拶

宮城県仙台第二高等学校同窓会 会長 堀田 康 哉

先ず以て、同窓各位にはお元氣でお過ごしでしょうか、お伺い申し上げます。

ところで、いよいよ間近に迫った百周年記念事業も我々関係者挙げてその準備諸作業に取り組んでおります。完了

のその日まで何卒特段のご協力の程、平身低頭お願い申し上げます。お陰様で現在同窓各位のご協力を頂きながら、

加えてお励ましのお言葉まで頂戴し、只々感謝感激ここに勇気百倍任務遂行、その日まで、このまま突っ走る所存です。このまゝ突っ走る所存です。このまゝ突っ走る所存です。

次に、同窓会構成人員の数ですが、今平成10年は、丁度中卒50回まで六、一八七名、高卒50回まで一八、〇三三名の Fifty Fifty(?) 合計二四、二二〇名(死亡を含む)であります。

又、宿命である職員の転退(職員人事欄を参照)の件ですが、平成10年4月新しく校

長に渡邊義之氏が、PTA会長に岡村昌幸氏が夫々ご就任、引き続き変わらぬご理解とご協力を頂いておりますことを申し添えます。

引き続き学校内容に移りますが、

文とは勉強のこと
武とは部活のこと

創立百周年の諸事業が潜行するなか、進学希望は例年通り「Top」の座をKeep 出来ましたことは誠に同慶の至りと存じます。寧ろこの栄光の重さを保持することが至難の業とは存じますが、頑張り続けて頂きたいものと心から願っていますところでもあります。

◆武

画期的企画とでも申しましようか、二年生を主体とした二十二名の Soccer 部員が、学校側並びに県当局の深いご理解により、揃って長途

Deutschland 遠征を執行いたしました。平成10年3月25日出発、4月6日一同元氣で帰国、団長PTA会長・岡村昌幸氏、監督・金田幸夫氏、参加部員は夫々短い期間ではありましたが、広く Global な見地での体得しましたその体験は大きかったことと推察、ここに拍手を送る次第。

なお、今回の会報は特に同窓各位との接点を広げる意味で各担当役員のご挨拶を頂くよう企画致しました(為念)。

ここでMainであります百周年記念会館建設の件ですが、設計は高13回の新進鋭鋭針生承一君にお願い申し上げます。

なお、建設委員に桂東北大名譽教授(高1回)・山下設計 斎藤 勲(高34回)両氏を夫々お願い致しました。(附)

(a) 母校二高は仙台市川内青葉山緑地帯の一面に在り、樹木多く、敷地内には現在

四七科一四三種七八〇余本の樹木が植えられております。見事な新緑、今漸く甜といったところです。(生物部調査)

(b) 部活の多様化と道路区画整理の煽りと“Ground”が

重文級の資料を寄贈さる。

此の度、丸谷孝郎氏(中39回)より、母校百周年を記念して貴重な家宝を仙台二高にご寄贈いただく事となった。

同氏は日本網管(現NKK)福山製鉄所に総務部長として勤務された関係で、同地方出身の頼山陽に関係のある数々の貴重な資料を蒐集された。

その中でも頼山陽研究資料の一環を占める、「山陽の長子津庵(いつあん)が父山陽に送った書翰に山陽が行間に朱書した、重文級と思われる重要な資料」を過日、堀田記念事業実行委員長及び渡邊校長におとどけいただいた。

学校側では、十二月二十二日に、御本人を御招待し、同

物理的にも極めて狭小となりました。百周年事業とは全く別個にその対策を練っておりま。是非隣接地を。飛地は駄目。

(平成10年6月4日)

窓会長出席のもと全校生徒に寄贈品の御紹介をいただき、感謝状を贈る予定。

頼山陽

江戸時代後期の儒学者・歴史家・漢詩人。一七八〇(安永九)年一八三二(天保三)年。著書に『日本外史』『日本政記』など。また、漢詩にもすぐれた。





さわやかな北陵の風を

宮城県仙台第二高等学校 校長 渡 邊 義 之

初冬を迎え校長室の窓から見える前庭の木々が、それぞれの色あいを示す、大変紅葉の美しい季節となりました。

いつもながら自然は実に美事な絵画をえがくものだと感心させられております。春の淡い黄緑から、夏の深緑、そして秋の紅葉とそれぞれの季節の景観を表現してくれま

す。これが又、実に本校の校舎とマッチしていますので木々を植えられすばらしい庭にして下さった諸先輩方の先見性に感服しているところで

と思っております。

四月の着任の時、応援団長をはじめ、団員諸君のエールで迎えていただきました。大変うれしいと同時に県下の名門仙台第二高校の校長としての重責を実感致しました。新任にあたり、私は生徒諸君に次のように話しました。「学校の主役は諸君一人一人である。主役である生徒を大切にしたい学校運営をやって行く」と。このことを肝に命じて努めていくつもりであります。

また、次の年度初めの始業式では、一つ、「明るく伸びやかな二高生であって下さい。」そのためには体を大切にしたいこと、二つ目は「何事でも熱中する二高生であって下さい。勉強でも部活動でも、人を愛することでもいい。」三つ目は「正義を愛し、自分の意見を堂々と主張できる二高生であって下さい。」そのためには生徒会活動を活発にして欲しいこと。四つ目は

「弱者や他者に対する思いやりの心を大切にする二高生であって下さい。信号待ちの体の不自由な方に、そっと手をさしのべられる生徒でありたい。」この四つのことを今年度の目標にして、私と一緒に

「さわやかな北陵の風を興そう」と呼びかけました。幸いなことに生徒諸君は、このことを良く理解してくれまして、部活動や学習でも諸先輩方の期待にそう成果を示してくれております。



男子校ですので先輩諸氏の頃とは大きな変化はないのですが、実は一つ変わったことがございます。私は今日、エプロン姿の二年生の生徒が作った、チャーハンと豚汁をごちそうになりました。男子に家庭科が必修となり、調理実習があるようになったのです。生徒は実に楽しそうに実習しております。

次に今年から中学校訪問をはじめました。高校に送り出す中学校側が、我々高校、とりわけ仙台二高に何を求めているかを知りたい機会になりました。各中学校の秀才を集めていながら、何が我々に不足しているのかも理解できましたし、我々側からの注文、多少手前勝手な話しも直接できるいい機会になったと思っております。

本校もまもなく百周年というきわめて重要な節目を迎えますが、二十一世紀に雄々し

く羽ばたく人材の育成に力を入れてまいりたいと思っておりますので、どうか同窓生諸氏におかれましては、前校長同様の温い御支援と御指導を賜りますようお願い申し上げます。また記念式典等への多大なる御厚志を賜っておりますことに改めて感謝申し上げますとともに、時節がら御健康に御留意下さることを祈念致しましてペンを置きます。



大学改革の中で 思うこと

東北大学総長 阿部 博之

「夢を見ることがなく、理論の妙味を解さない。発明することはほとんどないが、役に立つ物を評価し採用する能力はある。かれらの望みはできるだけ安楽に快適に暮らすことである。(中略) しかしながら社会そのものを創り出す人種ではなく、ましてやその社会に生氣と美と活動を与えるものではない。」

第二次大戦後、特に高度成長以降のわが国を批判している文章と思われるかもしれない。しかし実はそうではなく、アーリア人種の優越を説いた、

十九世紀の文筆家のコピノの「人種不平等論」からの引用(平川祐弘「和魂洋才の系譜」河出書房新社)である。

わが国の種々のシステムの先進国型への脱皮が求められているが、遅々として進んでいない。日本は外圧がなければ、変革ができない、という評価が欧米で定着してしまったとさえる。所属する組織の既得権と共同性が優先し、公共性との葛藤が希薄である。まさに人権不平等論を容認しているかのようである。



明治の知識人は、西欧におけるこのような偏見思想に強く反発した。福沢諭吉、森鷗外はその代表であった。東北大学は、このような明治人の気概を濃厚に意識した人々によって創られたように思う。そして今こそ、明治人のこのような議論が再び求められているのではないだろうか。知



ご挨拶

宮城県知事 浅野 史郎

識生産において立国し、人類に貢献していくことがわが国のこれからの役割であるとすれば、気概や独創の重視なしには、この実現はあり得ないからである。

に、「気概」の重要性を指摘している。このことは筆者の問題提起と重なる。わが国の教育の展望の議論は、わが国の未来像の議論でもある。教育改革への投資がこれ以上遅れるとすれば、わが国が危険状態に入ること覚悟しなければならない。

昨年十月から二期目の知事を務めている。一期目はなにもかにも初めてのことでだらけ。ともかく、秘書課の作るスケジュールをこなすだけの四年間だったような気がする。不祥事対応などもあったものだから、追いまくられるだけの日々の印象が強い。

二期目もこうでは何のために知事をやっているのか分からなくなる。スケジュールの中に一週二時間はど私が自由に使える時間を入れてもらっ

ているが、これを使いこなして少しは私らしい仕事をしたいものだ。

「私らしい仕事」とは、福祉先進県づくり、みやぎの行政改革、地方分権の推進などである。前回の選挙の際に、こういったことは「公約」のような形で世に問うたということもある。やらなければならぬ。それに加えて、選挙ではほとんどしがらみを作らなかった強みを生かしたいという気持ちもある。各種団体

の推薦も受けなかったし、お金ももらっていない。いらざる遠慮なしに仕事ができる。日本全体が閉塞状況にある。誰もがなんとかしなくてはと思っている。まず、目の前のできるところから動かしていくしかない。知事という立場でどこまでできるのか。高知の橋本、岐阜の梶原、三重の北川、岩手の増田、秋田の寺田の各知事と「八県知事連合」地域から変わる日本」という運動を始めているが、ここあたりから言葉だけでなく実践も示していきたい。

幸い、身体の健康、気持ちの元気さだけは健在である。みやぎからどれだけ発信ができるか。攻めの県政でがんばるつもり。

西澤賞の経緯について

宮城県仙台第二高等学校

同窓会副会長 石井敏夫

もう十年以上も前のことになる。仙台二高新校舎改築が着々と進められていたある時、西澤潤一先生から、「新校舎改築に際し、何か学校設備に必要なものがあれば寄附したいのだが。」と言う有難い御申し出をいただいた。併し県当局の予算面での御配慮と奨学会から一億円を助成するという措置がとられていたので、設備についてはある程度のもので整備される見通しがあった。そのため此の有難い御好意を別のかたちで生かす工夫をさせていただき、二高運営のソフト面で、生徒諸君の意欲を高める施策として西澤賞を創設していただいたのである。

校長さんを始め二高当局におまかせする事とした。聞くところによるとその基準は、(1)西澤先生の御好意による賞なので東北大学の理系に進学した卒業生。(2)学業のみならず、クラブ活動、運動部活動等の他、その人物が衆目の一致して推薦する卒業生。に贈呈していただいている。

第一回の受賞者は、昭和六十年三月卒業(高三十七回生)の揚妻直樹君と津久家智光君の二名である。其の後、各期二名(三名ずつ合計十四回期(三十五名))の西澤賞受賞者を生み出した事になる。そして毎年二月には二高卒業一年目の受賞者と、東北大学の卒業を迎える受賞者で西澤先生を囲み食事を共にする機会を設けている。

幸いな事に、第一回の受賞者の津久家君が(株)松下通

信仙台研究所に勤務している事がわかったので、今年は同君にも同席してもらうこととなった。立派な企業内研究者として活躍している同君と西澤先生との会話には若い受賞

者諸君も大いに励まされた様である。

最近の低金利の影響を受け、金利だけで此の西澤賞を運営する事はむずかしいので、折にふれ先生の講演料や謝金を

いただいて、基金を減らさない様に努力しながら、運営しているのが実状である。関係者としては少しでも長く此の制度をつづけたいものと思っている。

西澤賞に思う

第一回受賞者 高37回卒 津久家 智光

私の二高在学期間は、昭和五十七年四月(六十年三月)で終了した。その後東北大学工学部に進学し、卒業後すぐ就職しましたので、大学卒業から十年、二高卒業から数えると実に十四年も経とうとしており、改めて時の流れを実感してしまっています。

現在私は、「松下通信仙台研究所」という松下通信工業の地方拠点研究所に勤務し、ソフトウェア関連の研究・開発業務を担当しております。

区明通に完成した自社社屋に移転し、現在に至ります。移転当初は、ちょうどバブル経済の崩壊時期でもあり、周りには他の建物など皆無で、最寄りのバス停まで徒歩二十分という状況でしたが、近年、付近に県立大学や県立図書館が完成し、だいぶ賑やかになってきたようです。

さで、西澤賞の第一回受賞者として、受賞当時も振りかえりつつ、西澤先生との思い出について書いてみたいと思います。

ちょうど私が二高を卒業する年に西澤賞が創設され、東北大学理学部への進学を決めていた揚妻直樹君と共に、縁あって第一回の賞を頂くこと

になりました。今考えれば、東北大学に進学した理系学生の中でも「特に頑張らなさい」という願いを含め贈られたものだと思えます。その期待に添うような学生生活を送ったかどうか、少し心配になったりしています。

その後、大学卒業前に、西澤賞設立当初から世話役をずっと引き受けてくださった石井様からお誘いがあり、西澤先生と会食する機会を作って頂きました。大学で先生の講義を受ける機会には恵まれませんでしたが、流石にこの時は先生の偉大さや業績を熟知していたため、揚妻君と一緒にのんびりお話ししたものです。そんな我々と

いたでいて、基金を減らさない様に努力しながら、運営しているのが実状である。関係者としては少しでも長く此の制度をつづけたいものと思っている。

も、先生が気さくにお話ししてくださり、技術者としての立身を勇気づけてくださったことを覚えています。

また、これはつい先日のことですが、大学四年生になった第十回受賞者の皆さんと西澤先生の会食の席に、就職十年目ということで同席させて頂きました。久しぶりに直接先生とお会いしたのですが、先生は十年の時を感じさせないほど若々しく、また活動的でいらっしやいました。自分がやるべきこと、やらなくてはならないことをはっきり理解して、いつも真面目に全力を尽くしていらっしやる先生の姿を再び目の当たりにして、また大変勇気づけられました。私も、西澤賞を受賞した者として、果たして西澤先生の期待に込めているのかどうかはわかりませんが、今なお精力的に各方面において活躍されている先生の姿を励みとし、自分なりに頑張っていきたいと考えています。

最後になりますが、このような賞を設立して頂いた西澤先生と、その設立から現在に至るまでの運営をずっとお世話頂いている石井様に、心から御礼申し上げます。

私の終戦(上)

宮城県仙台第二高等学校
元校長 仁科博之

昭和二十年、私は勤労動員のため、東京第一陸軍造兵廠苦竹工場で働いていた。仙台二中の四年生のときである。苦竹工場では、B29爆撃機を撃ち落とすための20mm機関砲の弾薬を作っていた。20mm機関砲の弾薬は弾の直径が20mmで、薬莖を含めると長さ30cmほどになる大きな弾丸である。以前には、日本の戦闘機は13mm機関砲を使っていたが、B29はなかなか撃墜できなかった。20mmにしたと言う。20mm機関砲弾薬の総生産の九割は、苦竹工場が生産していたと言う。勿論こうしたことは、軍の機密で、口にしたら、すぐに憲兵に逮捕された。

七月下旬、二中学生二十名が工場長(陸軍技術少尉)に呼ばれ「山形に、地下工場を建設しているの、そこへ行って先発隊と交代して、機械を据えつけ試運転してくるよう」と命令された。当時、仙

入ると、一般工員の班長が畳の上にお金を並べ始めた。工員に渡すものと見ていると、「皆んな、ひとつずつ取れ。」という。手に取ると一二〇円あった。一〇〇円札を自分で稼いだのは、生まれてはじめてのことであった。

日が暮れると、部屋当番が青い杉の葉を鉄製の火鉢に積み、火をつけ、もうもうと煙をたて蚊を追出し窓を閉めてしまふ。夜具は、枕が十個程あるだけで畳の上に横になる。二十畳に三十人が寝るのだから隣の友達と、汗ばんだ肌が付いてしまふ。暑くて眠れたものではない。夜中に、外に出て防火用水に飛び込み体を冷やし、明け方にちよつとまどろむだけであった。

食事は、芋の入ったご飯と朝はきゅうりのみそ汁、昼はきゅうりの漬物、夜はきゅうりの煮物と、きゅうり、きゅうり、きゅうりと、きゅうり以外のほかは、二、三度芋の煮つけがでたのみであった。一方、仕事は、試運転どころではない。毎日「ドカン、ドカン」と発破をかけて地下工場を造っている状態で、我々の作業は各地から送られて来

る工作機械を、貨車から降ろす仕事であった。機械をならべておいた畑は、楯山駅の北側にあり駅より二〇m程低いところにあった。従って、地面から鉄道の枕木で斜面を組み上げその上を、数トン〜十数トンの旋盤やプレスなどの工作機械を、ゆっくり、ゆっくりと降ろすのである。今なら、クレーンで吊り上げ簡単に降ろすことができるが、当時は、神楽さん、チェーンブロック、ウインチ、ころと掛矢等の道具しかなかった。大変危険な作業であった。事実、松本幸起君は間一髪倒れてきた機械の下敷きになるのを免れる、ということも目の前で起こった。しかも、災天下朝六時から夕方六時までの十二時間労働である。疲労は極限に達していた。

更に悪いことに、全員下痢が始まった。下痢しながらも空腹のため、生きゅうり一貫目(三、七五kg)を農家から買ってきて、味噌も付けずに三〜四人で嚼じってしまうのである。下痢との悪循環が始まり、体重はみるみる減ってきた。

(次号に続く)



本年一月フィンランド駐箚大使を拝命し、三月ヘルシンキに着任しました。バルト三国の一つエストニアをも兼轄しています。

仙台二高卒業後東北大学（法）を経て昭和三十四年外務省に奉職して以来これ迄三十九年に亘る外交官生活の中で在外公館勤務は九カ国目となります。米国（留学と大使



フィンランド大使に就任して

高7回卒 石垣 泰司

館）を皮切りにアジア（ビルマ、タイ、大洋州（豪州）、北米（カナダ）、中南米（ブラジルとドミニカ共和国・ジャマイカ・バハマ兼轄）、中近東（レバノン）に今回の欧州とアフリカ以外の五大大陸での勤務を経験することになります。アフリカにも出張の形で数次に亘り約十カ国に赴いたことがありますので世界の民族と文化の多様性に深く接することができました。

在外勤務を長くしているとよくどの国が最も気に入ったかと尋ねられ応答に困ることがありますが、私にはこれ迄勤務したどの国も興味深かったし、それぞれ違ったエンジョイの仕方ができたと思っています。特にビルマ、タイ、ブラジル、レバノンは、途上国なりに治安、仕事、教育等の面で苦勞も少くありませんでしたが、古い歴史と文化、素晴らしい自然に魅力ある人々との出会いもあり、それぞれに

忘れ難い想い出があります。

フィンランドは、着任してまだ短期間しか経っていませんが、これ迄勤務したどの国とも違った特色と新鮮さを感じています。治安は良好で森と湖の国として知られているように夏の自然環境は特に絶品です。国民性も大変真面目で日本人に似かよった所もあり、パーティーへの出席の仕方を見ても中南米や中東とは非常に異なり開始時間前に殆どの方がそろってしまっているのに驚かされます。

フィンランドの特色は、何と云っても冬が長いことです。私が着任した三月下旬は勿論未だ冬の最中であり、私の居住している公邸は海に面しているため四月末迄凍ったままです。海を散歩している人も時折見受けられます。厳しい冬に耐えてきたフィンランドの人々は僅かの春の気配にも敏感で未だ寒い時期にも

少しでも太陽がさすと公園で日なたばっこをしたり、子供を外に連れて散歩して楽しんでいきます。

フィンランドの欧州全体における地位も近年特にEUに加盟して以来急速に変化、向上しつつあります。更に近く発足する欧州通貨同盟へも北欧の中で唯一参加を決定し、明年後半にはEUの議長国となる予定です。経済面でも木

材パルプ産業依存より脱却しノキアを始めハイテク産業も発展しつつあり、好調です。

フィンランドと日本との関係も緊密化し、明年は両国修好八十周年目を迎えます。双方に多くの友好団体がありますが、最近東北にも友好協会が設立されフィン・エアの仙台空港乗入れに努力されているのは地元出身者として喜ばしく感じている次第です。



支部北陵だより

青森県同窓も元気で

中37回卒 生駒 日出夫

「豊栄昇る 朝日の御影」
は、支部の面々にも、爽かに
輝いて呉れています。
十二月十四日、同窓相集い、
氣勢を挙げました。



昭和五
十三年の
創立から
二十年目
の第十回
総会とな
りました。
この度の
議題は
(一) 支部会
員の掌握
(二) 母校百
周年事業
への協力
の二つで
あります。

最盛期三十四名であった会
員数は、登録者二十五名にな
り、若い同窓の来県と入会が
課題になっております。

しかし、現会員の母校愛は
弥高く、百周年事業の成功を
遙かに祈りつゝ、夫々が自分
の一灯を献ずることを、誓い
合った次第です。当日の記念
写真を見て頂きましょう。

(一) 前列中央が、中37回生の生
駒支部長。当年七十九才の
老骨ながら、百周年迄はと、
意気盛ん。

(二) 同右端は、中46回生の、佐
藤邦夫常任理事。耳鼻科医
院を八戸市で開業。

県医師会の会長代理を務め
る。一九九五―六年度、青
森地区のロータリーガバナー。
余技の版画は玄人はだし。

(三) 同左端は、高6回生の、和
田瑞穂幹事。製材所を自営。
旁々、消防団長を務め、数
年前から、地元上北町の教
育委員長として活躍。

(四) 後列右端は、高12回生の、
千葉力幹事。青森市民病院
NICU部長。

(五) 同右から二番目は、高21回
生の、米田代志事務局長担
当。県立青森中央病院心臓

血管外科の名医。同院野球
部長。六ヶ所での支部懇談
会に当っては、旅館主ご母
堂様のご自慢、鴨料理で慰
めて頂いた。

(六) 同右三番目は、高8回生の
佐藤秀樹常任幹事。内科病
院の経営者。写真のお顔で
も分るゴルフ好き。

(七) 同左端のヒゲ青年は、高22
回生の新山龍治事務局長。

新山歯科院長。元母校応援
団長。支部の会合の〆繰り
は、得意の音頭の三々七拍
子。

以上、七人が今回の参加者。
故あって欠席の数人を紹介し
ておきましょう。

中30回生の進藤正武顧問。

元青森通信病院院長。

中44回生の朝倉滋幹事。

朝倉肛門科院長。元青森市

医師会長。俳人。

高2回生の三浦義章常任幹事。
(陸奥) 横浜診療所長。嘗
てのサッカーの名選手。

高9回生の種市裏幹事。

八戸市の清心会外科医院々
長。同窓会となると、令夫
人の運転で、参加する。等々
少数精鋭の多士済々の、わが
支部です。

二十一世紀は、青森県の夜
明け。新幹線も参ります。
天下の景観に加えて、縄文
の歴史を変えた、三内丸山
遺跡や世界遺産に登録され
た、白神山地。更には、科
学技術の先端を行く、原子
燃料再処理施設等々。

皆々様の一層のご関心と、ご
視察を、心から願っています。
(終)

東海北陵会発足

高9回卒 千葉 善根

本会については、以前から
旧交を温めている高8回松本
恭一氏・渡部清二氏、9回岡
忠男氏・千葉義根の間で何度
か話題になったことがあった
が実現しないまま数年が経っ
ていた。折しも昨年の二月十
一日、中京宮城県人会で偶然

松田武彦先輩（中47回卒）と同席し談笑中、「是非同窓会を作ろう」との鶴の一声からスタートすることになった。

前述の五名が発起人となり、平成二年発行の同窓会員名簿をもとに愛知、岐阜、三重県在住、在勤の同窓生を掘り起こすことから始め、百三十名に案内状を発送したが転勤、転居等で大部分に連絡がつかず結局五十名で本会を組織した。打ち合わせの時間がなかなか作れずまた満足にワープ

ロも使えず、辛うじて会員名簿は作ったものの会則その他不十分な状態で、その上同窓会本部への連絡も取らずに走り出してしまった。

第一回の総会は見切り発車的ではあったが昨年九月六日、名古屋ABCクラブ・アラスカにおいて七十四才から四十才までの三十名の会員が出席し様々な出会いのもとで賑やかに行われた。席上、会長に松田武彦氏を選出し残りの発起人四名に高17回上口 裕氏

正式に発足した。

程なく本部より仙台二中、二高それぞれの校旗および校歌・応援歌の入ったCDを送っていた。前回の総会から余り間がなかったが会員への披露を兼ねて総会を開くことになった。

二つの校旗を壁に掲げバックグラウンドミュージックに校歌を流し第二回総会（三月七日）を開会、年度末を控えていたにもかかわらず二十名が出席した。今回は堀田康哉同窓会会長および木口倉之助校長からの祝詞をいただき東北北陵会の門出にふさわしいものとなった。二度目の集まりのせいか、CDに合わせて応援歌を声高に歌ったせいか前回以上に盛り上がりCDからダビングしたカセットテープをみやげに散会した。

現在、会員間のコミュニケーションを密にすべくイベントや会報の発行等検討中である。尚、総会については今後十月の第三又は第四週の土曜日を予定、連絡の取れていない同窓生からの一報を期待。連絡先（千四六五〇〇二五）名古屋市中東区上社 五一四一一（千葉 善根）

TEL

〇五二七〇一六五九八

第三回総会予定

平成十年十月三十一日

東京同窓会盛大に開催

新会長に那須 翔氏を選任

高5回卒 菅 原 正 人

隔年開催の仙台二高東京同窓会は十月二十二日十八時から東京赤坂のホテルオークラ別館曙の間で首都圏二〇〇名の同窓会員が参加して開催された。

新会長に東京電力（株）会長の那須 翔氏（中42回）を選任、引き続き新会長の記念講演が行われた。その後懇親会に移り、NHKOBの佐藤隆輔氏（高5回）の名司会で終始なごやかに時間を忘れる楽しい親睦が図られた。途



同期会だより

古龍会の歩み

中43回卒 伊藤 栄雄

私達中学四十三回卒の古龍会は、昭和二十八年未だ焼野ヶ原に、堀立小屋が顔を利かしておった暮の十二月、世の中も大分落着いてきたので「兎に角皆で集ろうや」との合言葉で木町通りの本田旅館に、山下、堀見両先生のご臨席を仰ぎ、二八名の参加で発足致しました。その際に名称は、山下先生の名付け親で、決定致しました。入学時の生徒数は、約二二〇名位と記憶しておりますが、その後故人六五名、音信不明一三名で、現在会員は、一四二名となっております。会の経過として総会は昭二八、昭四十六年迄の十回で、一回平均参加者三十一名、昭四十七、現在迄は毎年開催し、本年十一月で二十六回の一回平均参加者は、三七名となり最大時は四五名で、

本年は第三十七回を迎える予定です。又ご臨席を戴いた恩師の方も延一〇九名で、最大時は八名でございました。運営の一部としては、名簿の毎回配布の他、会員近況として総会出欠往復ハガキの通信欄を別冊として送付しております。又平成三年には第三〇回記念行事として、蔵王池手前に背丈約三米余の木犀の植樹と、平成七年には古稀の記念として、旧学舎のテレホンカードを配布致しました。最後の一員になる迄頑張ってください。



古稀記念第十回総会

中46回卒 桃生 和夫

去る六月六日、期友四十六名が参集して、仙台ホテルにおいて開催しました。

恩師 居坂知己先生、田辺啓三先生をはじめ堀田同窓会長、藤原同窓会副会長、渡辺校長先生に御出席いただき、校歌斉唱に始まった三年振りの会合は、来賓御挨拶、乾杯そして懇談と、しばし時のたつのも忘れて、二中学生にかえり、往時をなつかしく偲ぶことができました。

中四十五期会

中45回卒

高橋 平馬

年例会を十月三十一日四時からKKRホテルで開催。来賓の石井同窓会副会長を迎え、同期二十三名が参加した。石井さんから創立百周年を控えて母校と同窓会の現況、記念事業計画の内容についてのお話あり。続いて参加者全員から近況、在校中の想い出等スピーチあり。笑いあり、追想にふけるあたたかい一刻を過ごし、再会を約して散会。

平成十年十一月

苦難の時ではありましたが、愚痴をこぼしている期友を見たことはありませんでした。皆、一所懸命前向きに生きたのです。

命のある限り生きて、喜寿の祝いに又集まることを約し、北海道から駆け付けた高橋昭君の音頭で万歳を三唱し、定刻に散会しました。



高3回卒業

創成会開催

高3回卒業

高橋 正道

高3回卒業の在仙同期会が十月三十一日(土) 三時からワシントンホテル内バロンクラブにおいて四十五名が出席し開催された。今回の案内の中に同期会の住所不明者の名簿を同封し探索を依頼したところ十二名が判明、早速連絡をとり卒業以来の懐かしい顔が二名出席、旧交を暖めながら二高時代の思い出が飛びかいた。お互いの健康を祈りつつ夕刻散会。

尚、「創成会」の命名は恩師故松崎喜一郎先生。

高4同期会

高4回卒業

我妻 道也

高4同期会が四月四日仙台

市の勝山館で開かれた。創立百年に向け募金にドライブをかけるのが目的。応援歌の「雨か嵐か暗雲」には馴染んでいても、二日の大雪には驚いた。幸い、当日は春の日差しが戻り、七十人余りが集った。かつて、欠席の友からの便りは「仕事の都合」というのが多かったが、今回は「末っ子が嫁に行く」「身体の調子が…」というのも目立つ。亡くなった友も三十人。特記すべきは宮本勉君のデビュー。狂牛病が騒がれた頃、専門家として突然長崎からTVに顔

を出したが、生の顔を見せるのは卒業以来だ。上田欣弥・千葉貞三の両先生の元気な顔もうれしい。千葉先生と言えど昔中毒事件を思い出すが、今回も執拗な質問を微笑でかわされ、楽しみを次回に残した。一次会では自他共に許すバンドマン千葉英之君が校歌のタクトをとったが、二次会では意外にも日野市郎君がピアノで伴奏したいと強く希望賛成多数で承認。モツレアルト破綻調K十八番というべき伴奏で校歌を歌い会を閉じた。

ピンピン会の気概を！

高11回卒業 山田 義徳

我が母校も明後年(平成十二年)に創立百周年記念を迎えるとか。

奇しくもこの記念年にピンピン会こと我々高11回生も還暦を迎えるのも何かの巡り合わせか。同窓会の当番幹事にもなっているらしい。

『なにかやんなくちやなん

ねんでねえべか。たまにはあつまっぺや」と、ホテル松島大観荘の菊池健三君に労をとって貰い二年ぶりの同期会となった。学校からも奥山春雄先生にご足労願って、百周年記念の事業計画や募金活動について説明して頂きました。

因に、奥山先生も我々とは

同窓(14回生)の仲で、母校では国語の教鞭をとっておられるとかで、後輩と云うよりは皆んな教科書ならぬ資料を手に入しに授業を受けているような面持ちでもあった。今回二八〇名に案内状を出したところ、事務局の笹光光祚君の許に一七八名の級友が近況を寄せて呉れ、四十一名の出席となった。

朋有り遠方より来る、亦た楽しからずやだった。中には卒業以来四十年ぶりと言う友もあり、高校時代の眉目秀麗？も白髪禿頭となり、胸の名札と相手を見比べては『本当にお前か？』とお互いに怪訝な顔でしたが、そこはそれ直ぐに同じ釜の飯の会話となりました。

酒杯が重なるほどに宴会の彼方此方では学校時代の思い出や、お互いの近況を語り合う車座が出来たが、我が健康法なるものを披露しあうのも矢張り体のはころびを気にする年齢になった証しかなあ。

今回の集まりで、また三人の級友が鬼籍に入っていることを知った。ここに亡き旧友のご冥福を祈って黙祷を捧げ

たい。

明後年の学校創立百周年記念年是我々にとっても人生の節目でもある。学び舎を巣立って四十余年、母校に対する思い入れも十人十様だが、我々ピンピン会としても記念事業の募金活動に一人でも多くが協力し、この創立百周年に心の記念樹とすべく、11回生の気概で新たな世紀に向けての母校、同窓会のために一助たりえたい。

尚、東京のピンピン会は今二年二月頃に定期的に集まりを持っていて、こちらの方にも出席されるよう案内しておきます。



連日の同期会

高18回卒 菊地昭典

昨年十月、我々十八期は、連日連夜同期会をしていた。その会合の場は、浅野史郎選挙対策本部事務所。四年前同様、同期生が馳せ参じたので、選対が同期会のような雰囲気になってしまった。もちろん親睦のために集まったわけではない。我々が同期の浅野知事再選を果たすためであるから、真剣そのものである。選挙では素人なので失敗も多く、年がいくなく激しい口論もしばしばだが、底ではお互いに信じている。その顔は、高校時代のそれに戻っていた。そのあたりは、拙著「アサノ知事の冒険」(岩波書店同時代ライブラリー)でも詳しく記しているが、それには下地がある。相変わらず今でも隔月に仙台在住組が集まっているからだろう。全体の同期会が四年に一度オリンピックの年に催されていたが、二年に一度となり、今年は八月十五日東急ホテルである(おーい、みんな来いよ)。我々十八期

同窓生通信

菊薫る……

中45回卒 尾高惇彦



その朝、昭和十七年だったか十八年だったかの十一月三日、校長による式典の訓示が今まさに始まるうとしていた。校庭は秩序正しく、シンと静まり、雑音は一切なかった。開口一番、きわめて唐突に校長の口から出た甲高い声は、「菊薫る……」だった。

く覚えていない。一瞬、キョトン! という感じで、いま自分の耳に入ってきた言葉を受けた二千人の生徒たちは、次の瞬間、ドッ! と沸き上がった。伏線はあった。当時の仙台二中の校庭は、校舎の建っている場所からみて四、五メートルほどの崖下に広がっている。坂道がX型についていて、その交わるところが踊り場となり演台がしつらえてある。その日は、明治天皇のご生

誕日を祝う、国の祝日『明治節』だ。全校生徒は、早朝から整列して式典の開始を待っていた。

開始時刻となり、校長と教頭が校舎から姿を現して、生徒たちが見上げる中を前後して演台にむかった。

背の低い校長が、燕尾服にシルクハットといういでたちで威儀を正し、そっくり反って大股に歩く。その後から、背が高く痩せていて、チョビ髭を鼻の下にたくわえた、ニッケネーム『エンタツさん』

(当時の人気漫才師の一人) という教頭が、モーニングに山高帽スタイルで背中を丸めてチョコチョコと続いて歩く。演出がコミカルだ。

生徒たちの顔が自然に緩んだ。教師たちが振り向いてにらむので、再び緊張した顔に戻す。でも、下を向いたままの奴もいる。

校長が演台に立った。「キオツケー、校長先生に敬礼、カシラー、ナカッ!」

予備役陸軍中佐殿の、学校中一番怖い軍事教練担当教諭

である『ケタさん』の号令で、いっせいに校長を見つめる。もう、にやついている奴は誰もいない。

「ナオレーツ」

厳肅なる式典が始まった。直立不動の姿勢で真っ正面を向いたままの生徒たちへ、突拍子もない声の『菊薫る』が突如として降ってきた。もう駄目だった。

いくら笑うまいとしても、腹の中の横隔膜が言うことを聞かず、勝手に上下に運動してどうしても抑えられない。ドド、ドドッという笑い声が、二千人から沸騰している。

校舎が揺らぎ、校庭を取り囲む数十本の桜の古木から、残りの枯葉が落ちて散った。「コラッ、止めんかッ! 笑うなッ!」

大声で制止するケタさんの顔が、いっしょうけんめいに笑いを堪えようとして、歪んでいるのだからサマにならない。

それがまた、余計に笑いを誘う。最後には、ケタさんも担任の教師たちも、我慢ができずにみな笑いだして、とうとう

收拾がつかない有様となってしまった。

その間、校長と教頭がどうしていたのか、まったく記憶にない。

恐らく、校長は惘然として演台に立ち尽くし、教頭は困惑の表情のまま演台の脇から二人とも二千人の笑いを眺め下ろしていたのだと思う。

そればかりか、その後、式典自体が続けられて無事(?)終了したのかどうか、それもやはり、すっかり記憶から飛んで抜け落ちてしまっている。

普段は忘れていたのだが、菊の花が咲き揃う季節となり、いまは文化の日と衣替えをしているが、十一月三日の旧『明治節』を迎えると、あのときのことを思い出す。

土いじりが好きで『土方校長』とあだ名した土井先生も、『エンタツさん』の山下先生も、『ケタさん』こと長沼先生も、みなさん故人となられている。

つい先日、同窓会があったばかりだが、当時の悪童連も年老いてずいぶん減った。追憶も供養だという。

仙台二中・二高北陵会例会講師および演題一覧

(9年11月～10年11月・121回～127回)

回数	例会日	演 題	講師ご氏名	回期	お 仕 事
121	9.11.20	デジタル～マルチメディアは生きざまを変える	多田 基久氏	高6	エフエム仙台専務
122	10. 3.12	ボーダレス時代の科学・技術	北村 正晴氏	高12	東北大学工学部教授
123	10. 4.22	政宗の黄金の城	首藤 尚丈氏	高18	T A S 一級建築設計事務所
124	10. 6.19	アサヒビールに見る企業の活性化について	秋澤 利次氏	高7	アサヒビール園福島社長
125	10. 9.25	ローマと仙台 ― 二つのふるさと	武藤 順九氏	高20	絵画・彫刻家
126	10.10.28	心臓発作で倒れないために	目黒泰一郎氏	高18	仙台厚生病院 心臓センター長
127	10.11.20	建築デザインについて	針生 承一氏	高13	建築家

部活動OB会より

ハンドボール部北陵会について

高21回卒 菅 間 進

平成十年十一月七日、久しぶりにOB会を催し、十五、六名ではありましたが充実した内容の会合になりました。

を催し、現役のためとOB同志の交流を深めようと熱く燃えて、再会を約束し会を締めた次第です。

学校からも顧問の先生二名参加ということで、後輩たちの強化を含めた部活動への応援体制について大いに語り合うことができました。

県ハンドボール協会の会長・副会長が正にOBでもあるハンドボール部の歴史は輝かしい戦績と数多くの名選手を輩出しています。

近年は部員数の不足などで大変苦労していることもあり、OBとしてできることは最大限お手伝いしたいとの思いの集りでもありました。

高30回の二瓶君は東京から駆けつけるなど、高3回の高橋正道OB会々長を筆頭に各年代、定期的にこのような会



平成9年度事業報告

5月7日	(休)	第2回名簿委員会	二高会議室	18時
5月16日	(金)	当番幹事打合せ会① (高8,20,21,32,33)	二高会議室	18時
6月5日	(木)	役員会(三役) 常任委員会	二高校長室 二高会議室	17時 18時
6月25日	(金)	当番幹事打合せ会②	二高会議室	18時
7月5日	(土)	総会	仙台ホテル	17時30分
11月7日	(金)	百周年記念事業実行委員会 設立総会	二高講堂	18時
11月21日	(金)	同窓会創立百周年記念 事業実行委員会総会	第二ワシントンホテル	18時
11月26日	(木)	当番幹事打合せ会① (高9,21,22,33,34)	二高会議室	18時
12月11日	(水)	第1回百周年記念館建設 委員会	二高会議室	17時
1月13日	(火)	当番幹事打合せ会②	二高会議室	18時
1月21日	(水)	P同窓親会	仙台ホテル	17時30分

○定例三役会

5/20, 6/20, 7/3, 7/8, 8/1, 9/1, 10/6, 11/7, 12/5, 1/19, 2/18, 3/18

○百周年記念事業準備委員会

4/18, 5/16, 5/29, 6/27, 7/14, 8/25, 9/9, 10/13

○百周年記念事業実行委員会総務委員会

11/26, 2/18

○百周年記念館建設委員会ワーキング会議

1/28, 2/12, 3/16

平成10年度事業計画

5月15日	(金)	当番幹事打合せ会① (高9,21,22,33,34)	二高会議室	18時
6月3日	(水)	役員会(三役) 常任委員会	二高校長室 二高会議室	17時 18時
6月24日	(水)	当番幹事打合せ会②	二高会議室	18時
7月4日	(土)	総会	仙台ホテル	17時30分
7月22日	(水)	名簿委員会	二高会議室	16時
11月20日	(金)	当番幹事打合せ会① (高10,22,23,34,35)	二高会議室	18時
1月13日	(火)	当番幹事打合せ会②	二高会議室	18時
1月22日	(金)	P同窓親会	仙台ホテル	17時30分

○定例三役員会

毎月下旬 二高校長室 16時

(実施済) 4/22, 5/22, 6/24, 7/17, 9/4, 10/9, 11/9, 12/7

○百周年記念事業実行委員会

総務委員会 適宜 (実施済) 11/19

○百周年記念館建設委員会

ワーキング会議 毎月1回 二高校長室 16時

(実施済) 4/15, 5/20, 7/7, 8/24, 10/7, 11/24

当番回期の確認 ○で囲まれた回期がメインの当番

	平成10年	平成11年	平成12年
同窓会総会(7月第1土曜日)	高 ⑨ ②①・③③	高 ⑩ ②②・③④	高 ⑪ ③③・③⑤
P同窓親会(11年1月22日(金))	22・34	23・35	24・36

平成10年度 同窓会総会次第				懇親会次第			
七月四日(土)							
⑦ 閉会の辞 事務局 奥山 春雄	⑥ 副会長 星 卓次	⑤ 針生承一建築研究所 連 絡	④ 役員改選 事務局長 奥山 春雄	③ 百周年記念館プレゼンテーション シヨウ	② 副会長 石井 敏夫	① 平成10年度 予算案 副会長 星 卓次	① 平成10年度 行事計画案 事務局長 奥山 春雄
⑧ 特別会計 ⑨ 監査報告	⑦ 平成10年度 行事計画案 事務局長 奥山 春雄	⑥ 平成10年度 予算案 副会長 星 卓次	⑤ 創立百周年記念事業について 副会長 石井 敏夫	④ 役員改選 事務局長 奥山 春雄	③ 針生承一建築研究所 連 絡	② 副会長 星 卓次	① 閉会の辞 事務局 奥山 春雄
⑩ 万歳三唱 副会長 千葉 哲雄	⑨ 乾 杯 最年長・最年少会員 アトラクション	⑧ 叙勲者紹介 記念品贈呈	⑦ 来賓代表挨拶 来賓紹介	⑥ 募金委員長挨拶 副会長 藤原佐一郎	⑤ 学校長挨拶 校長 渡邊 義之	④ 校歌斉唱 司会 佐々木一夫	③ 当番幹事代表挨拶 高9回 田中 光彦
⑪ 閉会の辞 高22 熊谷 晴樹	⑩ 万歳三唱 副会長 千葉 哲雄	⑨ 乾 杯 最年長・最年少会員 アトラクション	⑧ 叙勲者紹介 記念品贈呈	⑦ 来賓代表挨拶 来賓紹介	⑥ 募金委員長挨拶 副会長 藤原佐一郎	⑤ 学校長挨拶 校長 渡邊 義之	④ 校歌斉唱 司会 佐々木一夫
⑪ 閉会の辞 高22 熊谷 晴樹	⑩ 万歳三唱 副会長 千葉 哲雄	⑨ 乾 杯 最年長・最年少会員 アトラクション	⑧ 叙勲者紹介 記念品贈呈	⑦ 来賓代表挨拶 来賓紹介	⑥ 募金委員長挨拶 副会長 藤原佐一郎	⑤ 学校長挨拶 校長 渡邊 義之	④ 校歌斉唱 司会 佐々木一夫

百周年募金状況とお願い

高2回同窓会副会長 星 卓次

ご承知のとおり、三年後の創立百周年を立派にお祝いすることを願ひ、百周年記念館(仮称)建設、記念式典挙行、百年史・同窓会名簿発行等の諸事業達成のため、総事業費二億六千万円と策定し、百周年募金を、本年度より三ヶ年計画でお願いしてまいりました。

この間、寄附金の免税処置のため①宮城県教育委員会に対し、記念館を県に寄附する旨の申請とその承認手続②これをふまえて、仙台国税局へ「国又は地方公共団体に対する寄附金に該当する」旨の申請と承認手続等に時間を割き、同窓会員の皆様へ、寄附行為が免税の対象となる旨の募金趣意書等を印刷しお手許にお送りした次第です。

お陰様で、昨今の厳しく、且つ行先不透明な政治経済の状況にもかかわらず、多くの方々からご協力をいただき、十一月十五日現在募金額は、別表記載のとおり、三千二百万円となりました。こゝに謹

んでご報告申し上げますとともにご協力賜りました方々に心より厚くお礼申し上げます。別表にご芳名を記載し敬意を表したいと思ひます。

ただし、同窓会募金目標額一億八千万円には、程遠い結果になっております。この目標達成は、決して容易なことではありません。創立百周年という節目の意義を十分考えていただき、未応募の方々は、是非ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

つきましては今後ご応募下さる方は①寄附申込書(官製葉書使用)に募金申込額・分割納入予定額等をご記入の上、ご送付下さい。(切手不要)
②郵便局払込票兼受領証の裏面に、ご寄附に対する税控除に係る「寄附金領収書」が印刷されていますので、確定申告の際ご利用下さい。従いまして払込票兼受領書で領収書に代えていただきますのでご了承賜ります。③募金募集期間は一応三年間と考えていま

す。以上ご留意下さい。
末筆ながら、同窓会員皆々

百周年記念館計画
アンケート実施

記念館建設ワーキンググループは八月末記念館建設についての校内アンケートを行い広く意見を集め、分析した結果を検討することにした。

アンケートは生徒・OB・父兄・その他二・四通の回答があった。主なものを列記すると、

一、計画への印象

良いと思うが一三八人、悪いと思うが三〇人、建設途中の部活動への不安、南校地が狭く無理はないか、全校生に利益になること等。

二、利用の仕方

合宿や大会など、他校生との合同合宿、会議、勉強、カルチャーセンター的に、OBや学識者の講演会、公開講座、地域の人の生涯学習、文化部の展示、ライブコンサート等。

三、利用ルール

利用後の片付け規則、清掃

様のご健康ご発展をお祈り申しあげます。

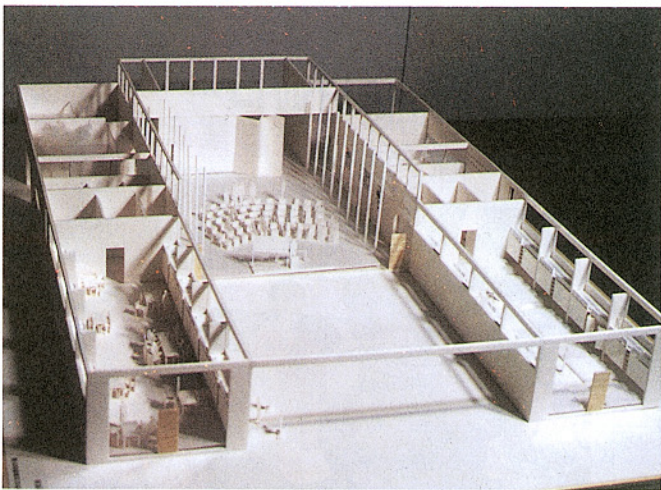
を徹底、清潔な施設、年中無休終日開放、二高生以外有料等。

四、南校地と北校地が分かれていてる事に不都合が一〇五、良い六七。道路の横断に危

陰通行車が多く、南校地への移動に時間がかかる。二高生の横断で一般に迷惑をかけている。歩道橋が必要。

五、校内の交流スペース

たまり場あり八七、ながしが八五。記念館の役割に期待感があり。



記念館概要

名称(仮称)	仙台第二高等学校百周年記念館
規模	平屋建
延床面積	823.50㎡(249.1坪)
施設	同窓会事務室、集会用ホール(300名程度) 生徒用宿泊室(100名程度)その他

記念館パネル

北陵祭で公開

記念館ワーキンググループは八月二十九日・三十日行われた北陵祭で参加型計画とする一環として、百周年記念館の基本設計パネルを校内で初めて、公開展示して行った。在校生をはじめその家族、他校の生徒など二高を訪れた多数の北陵祭参加者から高い関心が寄せられた。



新記念館に

受賞作を寄贈

百周年記念館に受賞の自作の絵画の寄贈申し入れが寄せられた。寄贈者は東村山市在住の吉田敦彦氏（高校7回卒）で、寄贈品は同氏の力作で昨年行動美術展で向井潤吉賞に輝いた「作品9718・開」（二〇〇号・幅二六〇・上下一九四センチ）の大作。記念館の展示場所については、設計者の針生承一（高校13回卒）と打合せを行っている。



百周年記念館

シンポ開催

百周年記念館ワーキング会議は記念館の利用者である生徒諸君の参加意識を喚起し、率直な意見を聞き計画に反映させる事を目的に、十年九月三日生徒会主催のシンポジウムを校内の視聴覚教室で開催した。

各学年、各クラブ代表約六〇名が参加、設計者針生承一氏（高13回卒）から基本設計の説明の後、生徒側からの意

見と質問に移り、使う立場から具体的で貴重な意見が数多く発言され、会場内の熱気から記念館への期待の大きさが感じられた。



NHKで二中時代の

校舎移転フィルムを放映！

NHK仙台では、三日間にわたって旧制二中時代のハミフィルムを放映しました。これは本校同窓会に残っていた昭和三年、第五代河合校長時代のフィルムです。内容は北六番町校舎から現在の校地への移転、運動会、水泳訓練、校庭の拡張・地ならし、軍事教練などの様子を記録したも

のです。これは本校に残っていたフィルムを物理の佐藤昌孝先生が整理し、NHKに働きかけたことによって実現しました。このフィルムを見ると、昭和初期の二中学生の学校生活が生きてよみがえってきます。特に校舎移転の様子は、堀田会長や藤原副会長が在籍していた当時で、生徒

が各人の椅子や机を運んで古い激橋を渡って行く様子など往時がしのべれます。

放映及び出演者は以下のとおりで、県内の番組「ほっと宮城600」で午後六時半頃に放映されました。

九月七日ー藤原副会長
十月十四日ー石井副会長
九月二十一日ー堀田会長

高橋副会長

なお、引き続きNHKでは昭和三十年代のフィルムを十一月下旬から随時、放送の予定で、十一月十五日には当時のマラソン大会の様子を放映します。またその中の一部はそのうち全国放送「映像の二十世紀」で放送される予定です。（事務局）

叙勲・受章

＜春＞

勲三等旭日中綬章

桂 重俊（中40回）

藍綬褒章

丸森 隆吾（高6回）

本多賞受章

西澤 泰二（中47回）

＜秋＞

勲四等旭日章

渡辺 龍夫（中46回）

蔵王遭難供養塔再建と

供養祭について

高6回卒
清野英一

このことは、会報二十八号で取り上げられて、山家禎一先輩から多大なご寄付を頂いた事は、三十号で報告がありました。

今回、百周年記念事業の一つとして、且つ今年が遭難八十年に当たるので再建と供養祭を十月十八日（予定）実施したいと学校当局と記念事業委員会でご決定頂きました。

当日は現地で、建立と供養祭を実施する計画ですが、遭難した九名の方々の、遺族や関係者の、ご参列を頂きたいので、お心当たりの方が御出ででしたなら、ご連絡頂きたいのでここに再度記載させて頂きました。

今更という向きもありましょ
うが、今更という時が最も必
要な時とも言えるので、情報
ご所持の方は、ご連絡くださ
い。

また、当日多数の方のご参列をお願いしたいと存じます。

大正7年10月23日蔵王山熊野岳にて遭難

- 教 諭 山中卯之甫 外記丁通り大井邸に寄留 英語教師
○教 諭 筒井 千吾 東7番丁(猪苗代出身)
○中19回 五島徳一郎 桃生郡飯野川出身(質屋・米商)
○中20回 高平 雄治 黒川郡落合村出身(菩提寺・明生院・落合村)
○中20回 小岩井 清 北六番丁・上杉山通太田鉄馬氏宅に寄留
家族は朝鮮京城府
○中20回 池田勘五郎 二日町59薬種商近江屋(菩提寺・大願寺・新坂通)
○中20回 安橋 虎雄 大町一丁目92靴商(菩提寺・圓福寺・石名坂)
○中20回 高橋 定一 大町四丁目31齊藤商店に寄留
○中20回 武原 義雄 新坂通(菩提寺・善導寺・新寺小路)

部 活 動 の 成 果

学 芸 部 成 績

部 名	成 績	部 名	成 績
吹 奏 楽 部	全日本ジュニア管打楽器ソロコンテスト (平成9年3月31日) 優 秀 賞 サキソフォン 細 川 優 秀 賞 トランペット 遠 藤 日本吹奏楽指導者協会東北支部 管打楽器ソロコンテスト (平成9年5月24日) 優 秀 賞 (2位) サキソフォン 細 川 金 賞 トランペット 佐 藤 金 賞 トロンボーン 小野寺 銀 賞 クラリネット 高 橋 銀 賞 トランペット 高 橋 銀 賞 ホ ル ン 新 妻 銀 賞 ユーフォニウム 遠 藤 宮城県管打楽器ソロコンテスト (平成9年6月7日) 金 賞 トロンボーン 小野寺 第10回定期演奏会 実施 (イズミティ21 平成9年7月13日) 全日本吹奏楽コンクール仙台地区大会 (平成9年7月26日) 高校の部Bクラス 銀賞	写 真 部	平成9年度第4回県高校写真展 佳作 2年 天 野「ダンス」 県高校画報編集4ページ分担当
物 理 部	第50回宮城県高等学校生徒理科発表会 「ヘルツの実験の検証」 優秀賞 菊地・高橋 「レーザー光を利用した光通信の基礎実験」 優秀賞 林崎・佐藤 第49回北陵祭 「ヘロンの噴水」「夕焼けの仕組」「蚊の実験」「レーザー光による通信」「ホログラフィの展示」「太陽光熱による焦点実験」「レールガンの実験」「二高物理部制作によるパソコンソフトの展示」「パソコンを利用した疑似プリント倶楽部」「部誌の配布」	囲 碁	第21回全国高校囲碁宮城県大会 準優勝
		将 棋	平成9年度 第33回全国高等学校将棋選手権宮城県大会 (団体・個人戦) 個人 3位 (志賀野) 第10回高校竜王戦 (個人戦) 5位 (高 林) 第14回全国高等学校将棋新人戦宮城県大会 (個人戦) 優勝 全国大会出場 (高 林)
		美 術 部	宮城県高校美術展 6点出品 優秀賞 「僕のははみには偽りがある」 (油絵) 熊 谷 優秀賞 「季節を忘れた鳥たち」 (彫刻) 小 野 仙台市内高校美術展 9点出品 優秀賞 「TRASH HEAD II」 (油絵) 後 藤 優秀賞 「マチノネコ」 (油絵) 国 井
		社 会 部	1. 北陵祭 展示発表「秦の盛衰」 2. 第41回社会科生徒研究発表会参加 優秀賞 「犯罪と規律―秦の法制を参考に―」 遠 藤
		数 研	第7回日本数学オリンピック予選合格 工 藤

運 動 部 成 績

大会名	平成9年度	平成10年度	大会名	平成9年度	平成10年度
部 名	新 人 大 会	対一高 定期戦	部 名	新 人 大 会	対一高 定期戦
陸上競技部	4×400R 3位 1500M 5位 (亀山) 県高校駅伝 8位	—	水 泳 部	400Mリレー 3位 400Mメドレーリレー 3位 800Mリレー 4位 (尾野) 200M平泳 2位 (尾野) 100M平泳 2位 (尾野) 400M個人メドレー 3位 (太宰) 200M個人メドレー 4位 (太宰) 50M自由形 6位 (池田) 50M自由形 8位 (並木)	200M個人メドレー 3位 (太宰) 400M個人メドレー 3位 (太宰) 100M平泳 3位 (尾野) 200M平泳 3位 (尾野) 400Mリレー 8位 400Mメドレーリレー 6位 総 体 2位 東北大会 6位
硬式野球部	甲子園宮城県大会 1回戦 仙台地区予選敗退 (2位校トーナメント戦敗退)	1回戦	ヨ ッ ト 部	—	FJ級 ソロ デュエット 13位 7位
軟式野球部	選手権大会 2回戦 新人大会 1回戦	負	空 手 部	—	—
バレーボール部	仙台市民総体 1回戦 新人大会 2回戦	勝	山 岳 部	6位入賞	—
バスケットボール部	選手権大会ベスト8 (平成10) 新人大会 3回戦	負	ス キ ー 部	ジャイアントスラローム7名 スラローム5名出場	—
サッカー部	選手権大会 1回戦 新人大会 2回戦	—	剣 道 部	団体 予選リーグ敗退 個人 1回戦 佐藤 2回戦 鈴木	—
ラグビー部	選手権大会 1回戦 新人大会 3位	負	柔 道 部	団体 決勝トーナメント1回戦 個人 66kg級 ベスト16 (加藤) 81kg級 ベスト8 (大平)	—
ハンドボール部	市民大会 1回戦 新人大会 1回戦	—	弓 道 部	団体Bチーム 3位 射道最優秀賞	—
卓 球 部	団体 2回戦 個人 2回戦	—	ソ フ ト 部	団体 2回戦 個人 3回戦 佐藤 菅野 2回戦 小池 2回戦 根本 2回戦	—
バドミントン部	ジュニア選手権 2回戦 団体 1回戦	—			団体 3回戦 個人 4回戦 斎藤・千葉
硬式テニス部	団体 3位 ベスト8 個人 3位 木川	—			

定 期 戦 の 結 果

ラグビー (1・1) 於二高 二高 7-17 一高	〈三部〉 (5・16) バスケットボール 二高 (24勝) 50-51 一高 (24勝)
軟 野 (5・4) 二高 3-10 一高	バレーボール 二高 (21勝) 2-1 一高 (27勝)
	柔 道 大狩を、一人残して二高勝ち 二高 (37勝) 一高 (48勝)

<硬式野球> (5・9~11 於宮城球場) (通算24勝21敗8分)

一回戦	二高 1 2 3 4 5 6 7 8 9 計 2 0 0 0 1 0 1 2 1 7 一高 0 1 4 0 0 2 1 0 0 8
二回戦	二高 1 2 3 4 5 6 7 8 9 計 0 1 0 1 1 0 3 1 1 8 一高 0 2 0 6 1 2 0 9 0 20
三回戦	二高 1 2 3 4 5 6 7 8 9 計 1 1 0 0 0 0 0 1 0 3 一高 0 4 1 0 0 0 5 2 12

寄贈函書

- | | | |
|-----------------|---------|---------|
| ●「Mito」 | 中40回 | 青山 史朗 殿 |
| ●「ある技術者の軌跡」 | | |
| ●「植物精油資源」 | 2冊 | |
| 高6回 | 山口 真一 殿 | |
| ●「ちび」と「わらは」の生活史 | | |
| ●「育つということ」 | | |
| ●「へめんこ」の文化史 | | |
| ●「嚴谷小波日記翻刻と研究」 | 4冊 | |
| 高31回 | 加藤 理 殿 | |
| ●「人間関係にも切り札がある」 | | |
| ●「人脈の極意」 | 2冊 | |
| 高3回 | 橋本 保雄 殿 | |
| ●「わが人生論」東北版 | 高7回 | 堀田 寿一 殿 |
| ●「例解新漢和辞典」 | 中40回 | 山田 俊雄 殿 |
| ●「故郷に告げよ」2冊 | 中40回 | 佐久間博信 殿 |
| ●「際の美学をめざして」 | 2冊 | |
| 高13回 | 針生 承一 殿 | |
| ●「遠いアメリカ」 | | |
| ●多数の文庫本 | 高3回 | 岩井恵治郎 殿 |
| ●「玉石録」 | 中40回 | 岡崎 正 殿 |

北陵会より

仙台・三高同窓ならではのユニークな親睦・研修の場
仙台二中・二高北陵会は発足以来十七年、本年度は十三
ページに掲載されているような活動を行いました。入会
資格は同窓会員、年会費、例会費各三、〇〇〇円。
問い合わせ事務局は ☎ 〇二二二六一一〇六七二

〇三一二六一〇六七
 〇三一二一一四一八五
 FAX
 (株)紅谷 高橋正道 まで

平成10年度・平成9年度の主な大学の合格者数 ※浪人は一浪のみ集計

(その1)

大學名 (學部)		10年3月			9年3月		
		現役	浪人	合計	現役	浪人	合計
東北大	文	3	2	5	4	5	9
	教育	0	0	0	1	0	1
	法	6	7	13	7	5	12
	經濟	11	5	16	18	6	24
	理工	4	3	7	5	2	
	工	23	20	43	27	13	40
	医	1	5	6	1	3	4
	歯	0	3	3	1	1	2
	薬	1	1	2	3	0	3
	農	2	5	7	3	3	6
	計	51	51	102	70	38	108
宮城	教育	8	2	10	3	1	4
北海道	道	5	4	9	4	4	8
北海	道	1	0	1	0	0	0
帯広	道	1	1	2	0	0	0
弘前	道	0	3	3	2	0	2
岩手	道	3	5	8	6	1	7
秋田	道	1	3	4	2	1	3
山形	道	5	2	7	6	10	16
福岡	道	2	1	3	0	4	4
図書館	情報	0	1	1	0	0	0
筑波	大学	9	1	10	4	2	6
宇都宮	大学	0	4	4	1	2	3
埼玉	大学	3	3	6	0	7	7
千葉	大学	9	5	14	3	4	7
東京	大学	4	8	12	4	1	5
東京	医科大学	0	0	0	0	1	1
東京	医科大学	0	1	1	0	2	2
東京	大学	0	1	1	2	0	2
東京	大学	1	0	1	0	0	0
東京	大学	0	1	1	2	2	4
電	気	2	0	2	1	1	2
電	気	1	2	3	2	2	4
横	浜	4	5	9	3	3	6
横	浜	3	0	3	0	3	3
新	立	0	0	0	1	0	1
富	山	1	0	1	1	0	1
金	沢	0	0	0	0	1	1
信	州	0	1	1	0	0	0
岐	阜	1	0	1	0	0	0
静	岡	1	0	1	0	2	2
名古屋	大学	0	1	1	0	0	0
京	都	3	1	4	0	0	0
京	都	1	0	1	0	0	0
香	川	1	0	1	0	0	0

(その2)

大 学 名 (学 部)			10年3月			9年3月		
			現役	浪人	合計	現役	浪人	合計
そ の 他			0	0	0	1	4	5
国立大学	合計		119	107	226	118	98	216
宮城	大	大	5	3	8	1	4	5
札幌医大	大	大	0	1	1	0	0	0
岩手県立大	大	大	4	3	7	0	0	0
仙台市立大	大	大	1	0	1	0	0	0
会津大学	大	大	0	0	0	0	1	1
福島県立大	大	大	1	0	1	3	1	4
高崎経済大	大	大	3	0	3	2	4	6
横濱国立大	大	大	0	0	0	0	1	1
名古屋大	大	大	0	1	1	0	0	0
和歌山県立大	大	大	0	1	1	0	0	0
その他の公立大学	合計		14	9	23	8	12	20
東北学院大	文法		2	2	4	3	1	4
	経済		2	7	9	5	7	12
	経済		1	3	4	4	10	14
	経済		0	1	1	0	0	0
	教養		1	3	4	0	3	3
	工計		6	6	12	0	3	3
東北工科大学	大	大	12	22	34	12	24	36
東北福祉大	大	大	0	0	0	2	1	3
東北工科大学	大	大	0	1	1	0	0	0
東北薬科大学	大	大	2	3	5	0	0	0
東北学院大	大	大	0	1	1	0	1	1
札幌医科大学	大	大	0	2	2	0	0	0
札幌医科大学	大	大	1	0	1	1	2	3
自治医科大学	大	大	1	0	1	0	0	0
獨協医科大学	大	大	0	0	0	1	0	1
河合	大	大	0	2	2	0	0	0
明海大学	大	大	0	1	1	0	0	0
青山学院	大	大	1	0	1	0	0	0
青森学院	大	大	0	14	14	2	9	11
青森学院	大	大	0	1	1	3	3	6
青森学院	大	大	1	1	2	0	0	0
共立薬大	大	大	0	1	1	0	0	0
慶応義塾大	大	大	5	26	31	6	20	26
慶応義塾大	大	大	0	7	7	0	2	2
慶応義塾大	大	大	0	4	4	0	1	1
慶応義塾大	大	大	1	0	1	0	1	1
駒澤大学	大	大	3	3	6	0	0	0
芝浦工業大	大	大	1	4	5	1	5	6
芝浦工業大	大	大	1	6	7	0	2	2

(その3)

大 学 名 (学 部)			10年3月			9年3月		
			現役	浪人	合計	現役	浪人	合計
昭	和	大	0	1	1	0	0	0
成	臻	大	0	0	0	2	2	4
成	城	大	0	1	1	0	5	5
専	修	大	0	0	0	0	4	4
多	摩	美	0	1	1	0	0	0
中	央	大	4	20	24	5	19	24
東	海	大	1	1	2	0	0	0
東	京	大	1	1	2	0	0	0
東	工	大	0	1	1	0	0	0
東	京	大	2	0	2	0	0	0
東	京	大	1	1	2	0	0	0
東	京	大	0	3	3	0	0	0
東	京	大	8	37	45	9	22	31
東	京	大	1	3	4	0	1	1
日	本	大	3	9	12	2	11	13
法	政	大	1	14	15	0	13	13
星	本	大	0	1	1	0	0	0
武	蔵	大	0	1	1	0	0	0
武	蔵	大	0	2	2	0	3	3
武	蔵	大	0	1	1	0	0	0
明	工	大	3	27	30	1	18	19
明	治	大	0	1	1	0	2	2
立	学	大	0	6	6	2	9	11
早	稲	大	9	24	33	11	15	26
神	奈	大	0	3	3	0	1	1
東	京	大	0	1	1	0	0	0
東	京	大	0	1	1	0	0	0
京	都	大	0	3	3	0	0	0
同	志	大	3	3	6	2	4	6
立	命	大	3	16	19	1	29	30
體	谷	大	1	0	1	0	0	0
関	西	大	0	1	1	0	1	1
近	畿	大	2	0	2	0	0	0
関	西	大	0	1	1	0	0	0
西	学	大	0	1	1	0	0	0
そ	大	大	0	0	0	7	32	39
私	立	大	72	285	357	70	263	333
防	衛	大	2	2	2	0	1	1
防	衛	大	2	2	4	3	3	6
そ	の	他	0	0	0	2	1	3

今春の人事異動

〈転任・退任の方々〉

木口倉之助 校長(退任)

徳山 高明 教諭(国語)

岩本 旬二 教頭(国語)

藤森 光昭 教諭(社会)

吉光 章喜 教諭(数学)

羽成 透 教諭(数学)

福地 和則 教諭(英語)

本間 利裕 教諭(国語)

高橋 樹順 教諭(化学)

白鳥 榮喜 補佐

本郷 泰彦 主事

渡邊 義之 校長

白幡 勝美 教頭(数学)

(志津川高教頭より)

(教育庁教育次長より)

(古川教育事務所へ)

(スポーツ振興課へ)

(志津川高へ)

(国見小より)

(化学)

(化学)

(体育)

(代替事務職)

(代務事務職)

(代務事務職)

(代務事務職)

(代務事務職)

(代務事務職)

幕田 和子 教諭(英語)

奥山 春雄 教諭(国語)

金子 忠政 教諭(社会)

杉内 宏行 教諭(数学)

遠藤 吉夫 教諭(国語)

後藤 順一 教諭(化学)

持田 亮 教諭(数学)

早坂 佳明 補佐

村上 亮史 主事

大槻 勇 講師(化学)

青砥 健 講師(化学)

半田 佳之 講師(体育)

高田 郁子 (代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

(代替事務職)

計 報

● 鈴木 二郎 (中32回卒)

● 森 栄喜 (中32回卒)

● 高橋 芳雄 (中38回卒)

● 遠藤昇五郎 (中39回卒)

● 南条 信夫 (中39回卒)

● 板垣欽一郎 (中41回卒)

● 澁谷 毅 (中41回卒)

● 鈴木 繁治 (中43回卒)

● 多田 邦郎 (中44回卒)

● 佐々木 襄 (中46回卒)

● 菅野 彬 (高2回卒)

● 小金澤昭光 (高3回卒)

● 高橋 成己 (高3回卒)

● 北村 和夫 (高4回卒)

● 前田 哲彦 (高8回卒)

● 平野 敏宏 (高45回卒)

(以上、事務局判明分)

心からご冥福をお祈り申し

上げます。

事務局だより

今年も師走を迎え、おしつ
まて、まいりました。この
ように一年の終わりを迎える
と、本校創立百周年に向けて
残された時間が刻一刻と少
なくなってゆくの感じがします。
事務局といたしましても、同

窓会関係につきましては、会
計は星副会長、事務局は校内
幹事(二高OBの教員)十三
名を中心に遺漏のないよう当
たてていきたいと思っております。

さて、この同窓会の会報に
ついて以下のことをお願いし
たいと思います。まず、同窓
生、同窓会に関するニュース
がありましたらなんでもなん
事務局にお寄せ下さい。特に支
部北陵会や同期会が行われた
場合など原稿や写真をお寄せ
いただければ、出来る限り掲
載したいと思っております。会報に
載ることによって、次回の集
まり具合も更に良好になるの
ではないかと思われまます。

次に、名簿を作成する関係
上、住所等の変更がありまし
たならば、是非事務局までご連
絡下さい。なお、名簿委員会
では、近々各期の名簿委員の
方々に集まっていたいただき、名
簿の作成に万全を期したいと
考えております。

三番目に百周年記念誌です
が、現在原稿につきましても
校内の教員が分担をして作成
中ではありますが、お手元二
中・二高に関する資料・写真
などがございましたら、お

貸し下さい。記念誌の資料と
させていただきます。
百周年が近くなりますとこの
ようにお願いばかりが多くな
り、恐縮ですが宜しくお願い
下さい。

なお以下に、事務局の連絡
先を記しておきます。

(奥山春雄)

同窓会事務局(会計等)

☎(二二二)五六二二

星副会長

(月・水・金在室)

同窓会事務局(二高)

☎(二二二)五六二六

編集後記

創立百周年が目の前に迫っ
ております。この同窓会報が
記念事業の成功のために少し
でも役に立つことができれば
幸いです。

今回初めての編集作業とい
うことで、不慣れなため、発
行が大幅に遅れました点、お
詫言ひ申し上げます。今後とも
会員の皆様の御協力、よろし
くお願い申し上げます。

(遠藤吉夫 高31回)

